



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：〒016-0805 秋田県能代市大手町3-38 成田憲太郎方 電話0185-52-6316

会設立からの歩み

今号には平成26年4月から26年8月までの活動を記録。見出し番号は創刊号からの通し番号。

205 平成26年度 総会開催

今年度総会は4月18日(金)13:30から14:30まで能代市中央公民館視聴覚室で開催された。23名出席。



安井会長のあいさつは、「今年の冬は比較的過ごしやすく、風の松原も被害は比較的少なかったが松くい虫の被害は相当な状況に及んでいる模様」「今年度も林床改良作業、ニセアカシア萌芽除去作業、樹木名札取り付け作業、松くい虫予防剤樹幹注入作業を例年どおり会員皆様方のご協力のもとにおこなってきた」「作業のたび感ずることだが、常時作業に参加される会員の数が年々少なくなっている。主な要因は会員の高齢化である」「話題は変わるが、今までも風の松原に携わる諸団体があった。立ち上げの時期は明確だが、解散、終焉の時期が定かでなく自然解散であったと記憶している。我々の＜守られる人々の会＞もそのような時期が到来したと思い、＜風の松原の再生と共に歩む会＞が始動する時期でもあり、よいタイミングだから一緒に活動してはどうかと3月役員会に話題を提供したが『松風第26号』に記載したような結論になった。

その結論は、①現段階では＜再生と共に歩む会＞がどんな活動を行うか定かでない。②実際に作業が始まるのを見極める必要がある。③市民の力を結集できるのか？などの意見があり、本会は新年度も従来通りの事業を継続して行うことになった。役員皆様のやる気まんまんの活力を頼もしく感じた次第である。今後も会員皆様のご協力、能代市民の財産であり誇りである風の松原を未来に引き継ぐべく、会員一致団結して守って行きたい。会員の皆様の方のご活躍ご協力をお願いしたい。

安井会長のあいさつのあと来賓の紹介があり、米代西部森林管理署長奥羽屋忠法氏と山本地域振興局農林部森づくり推進課長見上等氏が紹介され、奥羽屋署長は、昨年度風の松原にクロマツの補植を実施したことを説明するとともに今年度の事業についても話して下さった。

その後、船山捷治氏を議長に選出して平成25年度会務報告と決算報告、26年度事業計画案と予算案審議をおこない、すべて原案通り承認された。なお議案書は全会員に事前(4月2日)に配布済みである。

206 総会に出席出来なかった人たちの「声」

全会員に事前に送付した議案書に総会への出欠ハガキを同封したが、通信欄に次のような声が寄せられていたので紹介する。

①ボランティア大会の実行委員会を同日、同時刻に予定しておりました。申し訳ありません。

②地道に活動を継続しているこの会に今後も期待しています。体調の面から参加できませんが、会費のみで参加させてください。

③4流域の＜水と緑のネットワーク広報＞活動をしてられるみなさんの写真一枚一枚に感動して見入っています。「風の松原に守られる人々の会会報26号」会費のみの会員としては感謝の気持ちで拝見しております。

④美しい松原に守られている一市民です。皆様の活動には頭が下がります。いつも有難うございます。

⑤活動ご苦労様です。何もお手伝いする事は出来ませんが、風の松原は守りたいと思います。

⑥樹木の名札付けの時のお願い。枯れた木から名札を外して近くの別の木に移した方がいいのではないのでしょうか。(57番付近南側ムラサキシキブ 58番付近北側カマツカ No.8 付近西側サンショウ)

⑦非協力ばかりで申しわけありません。

⑧いつも丁寧な活動報告、会報他のカラー写真とても見やすくありがとうございました。

⑨85歳高齢者で何のお手伝いも出来ません。皆様御苦労様でございます。郵送料もかかると思いますので、会費請求書だけお届けくだされば、あとは新聞などで御活動の様子を拝見しております。

⑩会費会員ですみません。作業はできない体調になりました。体調がすぐれず、意に反して欠席いたします。おゆるしを!!

207 風の松原を守る市民ボランティア大会

本会の主催行事ではないが、「風の松原を守る市民ボランティア大会」が4月27日(日)に実施されたので、本会員も作業リーダーとして参加し協力した。今年からは風の松原の再生と共に歩む会が主催し、新聞報道によると参加者は600名。

208 県保安林の林床改良作業

5月15日(木)今年度最初の事業である第1回「県保安林の林床改良作業」が行われた。会員24名、市民や県と市の職員を含めた約30名がロケットセンターに向かう道路の海側で松葉掻き作業を実施した。



開始前から松葉掻きを始めていた人もいたが、安井会長のあいさつと作業上の注意のあと作業開始。



作業開始まもなく今年もショウロを発見。腐葉土がある場所ではショウロは育たず、砂がよい状態に保たれている証拠である。作業時間は9:30~11:30まで。下の写真は終了のあいさつ。



風の松原を歩いていると見通しが悪く、松林がヤブのようにになっているが、本来は松林は林間の見通

しがきくのが理想である。なお2回目は6月17日(火)9:30~11:30まで除草中心に行われ参加者は21名。

209 ニセアカシア萌芽除去作業

恒例となったニセアカシア萌芽除去作業は、今年も5月27日(火)と6月5日(木)の2回実施した。1回目は日和山あづまや付近のウッドチップ歩道の両側で行われた。



2回目は大森神社後ろのウッドチップ歩道から防火線2号の真ん中にある休養広場あづまやまでの区間で、散策者の邪魔をしているニセアカシアの枝を切り落とし、散策をし



やすくするために行われた。写真下は掘り上げたニセアカシアの根を持つ会員。

210 西部森林管理署による説明会

6月30日(月)10:30から米代西部森林管理署の説明会「地域の方々との連携による風の松原の保全管理」が実施された。「協定締結による国民参加の森林づくり」についてA方式B方式について詳しい説明があり、B方式で今年秋から実施予定の「風の松原の再生と共に歩む会」についてや、他団体がA方式で実施を希望する場合についての説明があった。

211 樹種名札取り付け作業

総会でも古くなった名札の更新・付け替えを要望されていた樹種名札取り付け作業は7月1日(火)9:30から行われ、サルスベリ、サンショウ、ムラサキシキブなど15枚の名札が交換された。同時に行われたクリーンアップとあわせて参加者は15名だった。